

科目名	助産学演習Ⅱ Seminar in Midwifery Ⅱ
授業形態	演習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春 C 月・木曜日 3・4時限
単位数	2単位
担当教員名	川野 亜津子 Atsuko Kawano 金澤 悠喜 Yuki Kanazawa 小澤典子 Noriko Ozawa 非常勤講師：渋谷えみ
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること 川野亜津子 AKAWANO@md.tsukuba.ac.jp 金澤悠喜 ykanazawa@md.tsukuba.ac.jp 小澤典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)周産期におけるハイリスクについて、それぞれの状態を説明できる (2)ハイリスク事例に関する治療および助産ケアについて、ガイドラインを基に述べることができる (3)ハイリスク事例に対する予防的な関わりについて、エビデンスを基に述べることができる (4)ハイリスク事例に対する助産ケアについて、研究的視点を持って分析できる (5)エビデンスを理解して、ハイリスクに対する演習が展開できる
他の授業科目との関連	助産師教育課程履修者は必修
履修条件	受講は、助産師国家試験の受験資格を得ようとする学生に限る
授業概要	身体的、心理・社会的にハイリスク状態にある周産期の母子とその家族の事例を通して、プライマリーケアを踏まえ、予防・早期発見、異常の診断、周産期救急への対応について、質の高いケアを学ぶ。さらに、ハイリスク事例に関する政策的課題を分析し対策すること、ハイリスク事例に関する臨床の課題を研究的に分析することを学ぶ
キーワード	ハイリスク周産期ケア Antenatal care 切迫早産 Impending premature birth 妊娠高血圧症 Pregnancy-induced hypertension

授業計画	<p>1 (9/2 3限)ハイリスク妊娠・分娩に対するケア:グループワーク (川野・金澤)</p> <p>2 (9/2 4限)ハイリスク妊娠・分娩に対するケア:グループワーク (川野・金澤)</p> <p>3 (9/2 5限)ハイリスク妊娠・分娩に対するケア:グループワーク (川野・金澤)</p> <p>4 (9/4 4限)疾患をもつ子どもと家族のアセスメントと支援(1)(小澤)</p> <p>5 (9/4 5限)疾患をもつ子どもと家族のアセスメントと支援(2)(小澤)</p> <p>6 (9/10 2限)出生直後の新生児ケア(金澤)</p> <p>7 (9/10 3限)遺伝カウンセリング(川野)</p> <p>8 (9/10 5限)小児の栄養(川野)</p> <p>9 (9/11 2限)我が国の地域母子保健と子育て世代包括支援センターの現状(金澤)</p> <p>10 (9/11 4限)低出生体重児を出産した母親と家族のアセスメントと育児支援体制(1)(川野)</p> <p>11 (9/11 5限)低出生体重児を出産した母親と家族のアセスメントと育児支援体制(2)(川野)</p> <p>12 (9/5 4限)ペリネイタルロス(渋谷)</p> <p>13 (9/19 3限)ハイリスク妊娠・分娩に対するケア:プレゼンテーション (川野・金澤)</p> <p>14 (9/19 4限)ハイリスク妊娠・分娩に対するケア:プレゼンテーション (川野・金澤)</p> <p>15 (9/20 4限)母子保健と地域連携:要支援事例(1)(川野)</p> <p>16 (9/20 5限)母子保健と地域連携:要支援事例(2)(川野)</p> <p>17 (9/24 5限)分娩時の救急対応(金澤・川野)</p> <p>18 (未定)新生児蘇生法Bコース(金澤)</p> <p>19 (未定)新生児蘇生法Bコース(金澤)</p> <p>20 (未定)新生児蘇生法Bコース(金澤)</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	周産期の健康問題に関わる文献を活用し、理解を深めること
成績評価方法	<p>講義の2/3以上の出席を以て評価を受けることができる</p> <p>授業の到達目標の達成状況60%, 授業内での発表内容・参加状況40%</p> <p><評価基準></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 適切な問題を設定できる 2 設定した問題の背景を説明できる 3 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる 4 その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げる事ができる 5 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べる事ができる <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである</p> <p>A* 上記1～7を自身で達成できる</p> <p>A 上記1～7をほぼ自身で達成できる</p> <p>B 上記1～7を教員の指導を受けながら達成できる</p> <p>C 上記1～7を教員の指導を受けながら概ね達成できる</p> <p>D 上記1～7について教員の指導のもとでも達成できない</p>
教材・参考文献・配布資料等	助産師基礎教育テスト 日本看護協会出版社
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	第17～20回、新生児蘇生法を受講します。日程については後日提示します テストに合格して、日本周産期・新生児医学会に申請すると、新生児蘇生法A(B)コース修了認定証が授与されます